

学童保育の役割と指導員の仕事

編集部

学童保育は、「保護者の就労などにより保育を必要とする小学生の放課後および土曜日や春・夏・冬休みなどの長期休業日の安全・安心な生活を保障すること」と「保護者が安心して働きつつけること、そしてその家庭を守る役割」を担っています^{*1}。指導員の仕事は、この学童保育の役割を、日々の保育を通じて具体的に果たすことです。したがって、指導員

には、子どもや保護者と信頼関係を築くことのできる大人として豊かな人間性と倫理観を身につけ、学童保育に通う子どもも放課後の遊び・生活とその家族の理解にもとづいて保育を行ううえで専門的な知識と技能が求められます。

二〇二四年五月一日現在、全国各地には二万四五三六か所（二万七〇九四支援の単位^{*2}）の学童保育があり、二二万人を超える指導員が働いています^{*3}。

国は、二〇一四年四月に厚生労働省令「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（現在は「府令」。以下「設備運営基準」）を公布し、二〇一五年三月には「放課後児童クラブ運営指針^{*4}」（以下「運営指針」）。二〇二五年に改定

を策定し、今後の運営にあたっての望ましい方向性を示しました。

各市町村は「設備運営基準」にもとづいて、条例で、設備及び運営についての最低基準（以下「基準条例」）を定めており、各地の学童保育は、この

「基準条例」にもとづいて運営されるとともに、「運営指針」にもとづいた「育成支援」^{くわしくは後述}を行っています。

子どもと共に生活をつくる

子どもたちは学童保育で、遊んだり、宿題をしたり、くつろいだり、困らんしたり、一緒におやつを食べるなどして放課後の時間を過ごします。また、疲れていたり体調が悪いときには、心身を休めて過ごします。近くの公園に遊びに行ったり、一日保育の日に昼食やおやつづくりを行う学童保育も

